

エゾシカネット3ヶ年計画

(2024年度～2026年度)

シカ問題に気づいてから30年以上の月日が流れましたが、社会はいまだに問題解決の方向を見出せていません。野生動物との共生がいかに難しいかを物語っています。北海道でもエゾシカが持ち込む被害リスクの対処に追われ続けているのが現状です。 よほどの体制を作りださない限り捕獲だけで問題を抑え込む段階は過ぎた、といえそうです。

素人で設立したエゾシカネット。スタート4年間は助成金等によるイベントの日々でした。振り返りますと
「何のために実施しどのようなことを目標とするのか」
が上滑り状態でした。「人材育成や組織の活性化不足」も実感し、途方に暮れています。自信をなくしていた頃もありました。

COVID-19の時期は時間に余裕ができ、それまでのワンマンな自分を反省し、諸任務を少しづつまわりの人任せしていく姿勢をとりました。

いま「世代交代」「子どもの成長支援」にも目を向け力を注いでいます。若い会員が自由に意見を述べ、法人で元気よく活動ができる雰囲気をさらにつくります。自主的にエゾシカ問題を学んだり、内部学習会に参加する会員が誕生したことにより、エゾシカネットは少しづつ出前講師する体制ができつつあります。対象となるテーマはバラエティーに富んでいます。

もう一つ大事なことがあります。それは10年、20年先を見据えて講師の育成です。子ども世代にも発表の場をすすめています。嬉しいことにエゾシカネットには昨年『こども・youth部』が誕生しました。youthはプロを目指す若い見習いのような意味です。ゆくゆくは自然や環境、野生動物と向き合う人材になれば、保護者の承諾と合意を得て加入していただいております。

私たちはエゾシカについての啓発活動をこの先ずっと継続し、来年実施の「10周年記念事業」、再来年実施の「エゾシカ検定」は長い活動の通過点に過ぎません。

市民のみなさま、今後ともご支援ください

2024年5月 理事長：水沢裕一